intense viridia subtus glaucina utrinque glaberrima, nervis 13–15, textu chartacea. Haec species *Shibatæa chinensis* affine, sed exquo foliis amplioribus basi sæpe subcordatis textu rigidioribus, culmis humilissimisque bene distinguenda.

Hab. China-mediana prov. Kiangsi, P'êng-chê, Nangwa-wan (彭澤縣南瓜灣) (F. MAEKAWA no. 11M539-Dec. 1941—Typus in Herb. Univ. Imp. Tokyo.)

とうおかめざさ(S. chinensis NAKAI) ハ浙江省東北部ト 江蘇省ノ南部ト = 分布シテ居ル。ソレ=較ベテ丈ハ極メテ低ク僅カ=高サ 20 cm = 満タズ、葉ハ一層剛ク且ツ濶ク基脚ハ淺心形=サヘナルノデ區別出來ル。今一種安徽省ノ南部=分布スルモノガアツテコレハ REHDER 氏が Journ. Arnold Arboretum 8: 91 (1927) = 記ストコロデハ高サ 2mトアリ、御江久夫氏ガ本誌 14: 549 (1938) デ葉裏=ハ有モナル旨ヲ述ベテ居ラレル、安徽黃山ノ南麓ノ休寧縣カラ記載サレタ Shibatæa hispida McCLure ナルハ多分コレデアラウガ今原記載が讀メナイノデ確言ハ出來ヌトシテモ本種デナイコトハ言へル。今回ノ産・地ハ本屬トシテ 分布ノ西限=ナルが 將來ハ 湖北湖南邊リカラモ見出サレルカモ知レヌ。終リ=色々御世話=ナツタ御江久夫氏=感謝スル。

## ○やまもゝトふともゝノ語源ニツイテノ新考 (前川文夫)

やまもも(Myrica rubra S. et Z.)ノ支那名ハ楊梅デアル。 コノ漢字ガ日本ノ記錄ニ -現ハレタ 最初\*ハ出雲風土記ノ意宇郡ト大野郡ノ記事デ、コレハ 元明天皇ノ御宇デアル。 - 又少シ遲レテ、 續日本紀卷 32、光仁天皇竇龜四年正月ノ條ニ「設齋於楊梅宮」同年三月 ニハ「造作楊梅宮、至是宮成…是日天皇徒居楊梅宮…」猶ぉ同年六月ニハ「楊梅宮南池生 蓮一莖二花」等ノ記事が見出サレル。以上ハ楊梅ノ發音ニツイテハ記シテ居ナイガ、醍醐 |天皇ノ御宇ニ出タ本草和名ニハ 也末毛毛(但シ楊梅ノ文字ヲ記サヌ)、和名類聚抄卷九ニ ハ楊梅、夜末毛毛トアルノカラシテやまももト訓ンダモノト肯カレル。サテやまももノ語 源ニハ大體三説アル。 其一ハ 新井白石ノ東雅カラ系統ヲ引ク山もも説で、やまハ栽培品 デナイ、山地生ノ意、もゝハ丸イ果實ノ意デアル。 同書ニハ「其形の桃に似たるにもあ らずしかるをモモをもて呼ぶ事は 凡果のその 肉核をつ ムみて 核の中仁あるものを皆モモ といひし也」ト述ベテ居ル。 寺島良安ノ和漢三才圖繪モコレト大同小異デアル。 牧野富 太郎先生モ日本植物圖鑑(昭和 15 年) 669 頁ニコノ説ヲ採ツテ居ラレル。第二ハ屋代弘 賢ノ古今要覽稿ニ出タ山桃說デアル。 卽チ同書 337 卷ニ「山中に自ら生じて味も苦みあ りて山生の桃に似たればしかよべり」トアル様ニソノ味が 似テ居ル 事カラ 來タトスルモ ノデアル。第三ハ山百百説デ、東雅ニハ古説トシテ「其樹山谷の間に生じて實又繁をもて かくいひしとみえたり」トスルモノノ系統デ、近クハ田村利親氏が本誌1卷 (298) 頁(大 ・ 正 7 年) ニ百々ハモヽト訓ジ 果實ガ多ク房ヲナシテ密集スル狀ヲ云フトシテ居ルノモコ レト同ジ考察デアル。 以上ヲ通ジテ見ルト やまニツイテハ 皆山地生ノ意トシテ居テ共通 ・デアルガ、自分ハコレヲ楊梅ノ支那音ノ轉訛ト考ヘタイノデアル。一體やまももハ上記ノ

<sup>\*</sup> 上村六郎: やまもも考 (本草第 11 號 昭和 4 年)。

様=古クカラ知ラレテ居り漢字モ宛テラレテ居ル。シカモ古今要覽稿=云フ様=『古くより何國にてもやまも」と呼て別に方言もなし云々』ナノデアル。コレハ支那カラ楊梅ノ名稱ト利用法トガ輸入サレタガ名ガナイ。ソコデ楊梅ノ支那音ヲソノ儘採ツテ Yam-mei トイフ丸イ質ノ意味デ Yam-mei-momo → Yama-momo トナツテ各地デ通用スル=至ツタノデハナイカト考ヘルノデアル。

てんにんくわ科ノ果實ニふともも (Eugenia Jambos L.) ガアル。 支那名ハ蒲桃デア ツテ、從來和名ノ語源ニツイテハ聞カナイガ、コレモやまもムト同ジク蒲桃ノ支那番ヲソ ノ儘ニ Pu-tou トイフ Mo-mo デ Huto-momo トナツタノダト思フ。

## 〇おほはりゐ (原 寛)

おほはりるハ はりゐノ 通常形ニ 比シ 大形デ 丈高ク 莖太ク、小穗ハ 大キク 長サ 6-10 (-15) mm (はりゐデハ 3-8 mm) 往々 圓昧アリ、鱗片ハ圓頭、 痩果モ少シク大、長サ 1.2 mm 許(はりゐデハ 0.8-1 mm)、花柱基ハ幅廣ク略正三角形ヲナシ、鬚體ハ通常痩果 ョリ長キモ花柱基ノ先端ニハ達セズ小逆刺アルカ稀ニ平滑デアル。コレハ本州、四國、九 州、朝鮮南部ヨリ支那(江蘇省)ニ迄分布シテ居ル。SVENSON (1939) ハ Heleocharis Maximowiczii ヤ Scirpus japonicus var. thermalis ガ同一カモ知レヌト書イテ居ルガ、 コレハ植物學雑誌 52 袋 348 頁及ビ本誌 16 袋 262 頁ニ述ベタ様ニえぞはりゐデアリ、お ほはりゐトハ異ル。はりゐニモ可成リノ變異ガアル事モ旣ニ述ベタ通リデ、莖ガ丈高ク小 穂・痩果が稍大形トナツタ形ハ おほはりゐニ頗ル似テクルガ、おほはりゐヨリハ痩果小サ ク花柱基ハ幅狹ク略長三角形デ、鬚體ハ花柱基ヨリ稍超出スル點デはりゐノ一形1)ト見做 スベキモノト思フ。 Svenson ハ E. pellucida はりゐ ノ記事中デ、 E. pellucida, E. affiata, E. Thomsonii ハ小形ノモノデ、コレハ長サ 1.5 mm =達スル痩果(花柱基ヲモ含 メタ長サナラン) ヲモツ大形ナ Scirpus attenuatus Franch. et Sav., E. ochrostachys BOECKL、ャ臺灣産標本 (FAURIE in 1914) - 移り行キ、更 = 印度ノ E. congesta - 連 絡スルト思フ旨述ベテ居ル。 コソ内印度カシヤ産ソ E. ochrostachys ト臺灣北斗産ノ標 本 (FAURIE, Nov. 1914) ハ Gray Herbarium デ質見シタガ、共ニ上記はりぬノ大形ノ モノデアツタ。横須賀産ニ基イテ記載サレタ Scirpus attenuatus ハ中井先生ガ巴里博物 館デ原標本ヲスケツチサレタノヲ拜見スル事ガデキ、又原記載ヲ注意シテ讀ンデ見ルトソ レガ疑ナクおほはりゐデアル事ガ分ツタ。はりゐニモ上述ノ樣ナ著シイ變化ヲ認メルガ、 おほはりゐハ 矢張リ別種トシテ 區別シタイ。 從ツテソノ 學名ハ Eleocharis attenuata (Fr. et Sav.) Hara トスベキデアル。印度ノ E. congesta D. Don ハおほはりゐヨリ

<sup>1)</sup> Eleocharis pellucida Presl f. elata Hara, f. nov.

Culmi ad 30 cm alti. Spiculae 6-10 mm longae. Achenia ca. 1 mm longa. Subspecie *E. attenuatae* simillima, sed achenio paullo minore, stylopodio angustetriangulare, setis stylopodio superantibus differt.

Hab. Honsyu, Sikoku, Kyusyu, Formosa et India.